

搾乳施設からでる排水の環境負荷低減方法

福島県畜産試験場 酪農部
平成13年度試験成績概要

1 部門名

畜産一乳用牛一環境汚染
分類コード07-01-36470000

2 担当者

小林 寛・籠橋太史・阿部正彦・塚原しおり

3 要旨

乳牛舎の搾乳施設等から排出される残乳を回収する方法を試行し、簡易な処理での環境負荷物質の低減効果について検討した。

- (1) フィルター管とバルククーラーから残乳を除去した時の沈殿槽の水質は、BODが430mg/lから65mg/lに、SSが110mg/lから30mg/lに改善された。
- (2) ミルクパイプラインのフィルター管から790ml、バルククーラーから350mlの残乳が容易に回収できた。さらに、パイプラインにスポンジを吸入させると残乳が押し出され、その時のスポンジの吸乳量は4個で578mlであった。
- (3) スポンジ4個で残乳除去したパイプラインの洗浄水BODは、残乳除去後は約3分の1に減少した。
以上から搾乳器具等から洗浄前に残乳を除去することが、畜舎排水の浄化対策に有効と推察された。

4 その他の資料等

杉若輝夫・高橋達典・谷藤隆志等：ミルクパーラー汚水の性状およびその処理，畜産の研究第53巻第7号803-809(1999)